

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000359		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム ななかまど大麻		
所在地	江別市大麻元町192番地28		
自己評価作成日	平成28年1月28日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaiyokumashu.jp/01/index.php?action_koukyou_detail_2015_022_kanistrice&dgysjofid=0171000359-00&PrefId=01&

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成28年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「あくまでも人間らしく」の理念のもと、ホームでの色々な行事を行い、入居者、御家族、地域の皆様、職員がコミュニケーションをとれる場面を多く持っています。
 又、町内会に入会し、町内会の交流会や温泉旅行などの行事に積極的に参加させていただき、いつでも協力していただけるように交流を持っています。
 地域の中で入居者一人一人が1日1日を大切に生活し、施設の中で閉じこもっているのではなく、マイクロバスで出かける機会を多く持ち、社会との関係を維持し、充実した日常生活を営んでいたけよう、職員が地域と協力してケアさせていただいております。また、家事や畑仕事は入居者の皆様と一緒にいき、今ある機能を萎えさせない様にしてあります。
 系列のグループホームとの共同行事を行い、たくさんの方との交流が持てるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR大麻駅より車で5分程の住宅街に位置する1ユニットのグループホームで開設から14年が経過している。運営者は、地域住民へ認知症高齢者の理解を促す活動を積極的に行い、認知症サポーター養成講座や認知症高齢者の講演会、認知症の人やその家族、支援者がタスキを繋ぐ「オレンジRUNえべつ」を企画実施するなど、行政との多様な連携と協力関係を築きながら利用者が安心して生活出来る基盤作りに取り組んでいる。理念である「あくまでも人間らしく」を基に、運営者、ホーム長、職員は一人となりケアサービスに努めている。それは利用者職員という関係だけではなく、個別の人と人との関わりの中で喜怒哀楽のある、当たり前な生活を支えながら、質の高い支援が行われている。運営者は閉じこもらないよう、外食や梅園見学、苺狩り、海水浴、雪まつりなど、社会との繋がりを大切にしたい支援に取り組んでいる。地域とは事業所主催の夏祭りや運営推進会議に地域住民の参加協力を得て、町内会行事にも積極的に参加し交流を深めている。災害訓練では夜間の訓練を取り入れ、断水時や停電時を想定した自主訓練を毎月実施しており、AEDや屋外サイレンの設置、発電機、非常用備蓄品も確保し対策に取り組んでいる。事業所は理念に沿って最後まで人間らしく過ごせる支援として、利用者、家族の意向を確認のうえに看取りを行うなど、終の棲家として安らげる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議など開催前、出勤時に理念、事業基本方針、介護方針を読み上げ、日常的に理念について職員に話している。	法人理念である「あくまでも人間らしく」を基本に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業基本方針と介護方針を掲げ、出勤時や毎月の職員会議時に唱和しながら、共有を図っている。理念は玄関に掲示し、業務日誌にも記載する事で職員はケアの中で理念を意識し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と、買い物・散歩・ゴミ捨てなどに行った時など、近隣の方と挨拶をしたり、積極的に声をかけている。また、夏祭り等の催しも案内し近隣との交流もある。地域のパーベキュー・温泉旅行の行事は積極的に参加している。	町内会行事は利用者も楽しみにしており、積極的に参加している。小学校の学芸会や運動会にも出かけている。事業所主催の夏祭りには近隣住宅に利用者と共にチラシを配り参加を呼びかけ交流を図っている。ボランティアを受け入れ、認知症高齢者の講演を開催するなど、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に対して年に1度認知症高齢者の講演会の開催の案内をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行い、ホームの様子を報告し、サービス向上に活かしている。運営推進会議にて、施設長、ホーム長、介護主任よりホームの様子やどんな行事に参加したかなどの報告をしている。	運営推進会議は2か月毎に開催している。事業所の運営状況や活動内容、外部評価結果についても報告し、課題となった災害対策について話し合い、意見交換を行っている。議事録は全家族に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所に書類など提出する際や会議などで担当課の職員に会ったときには、近況など話す機会を設けている。	施設長は介護保険推進委員を努めており、市と協働してサポーター養成講座を開催し講師を担当したり、認知症高齢者の講演会を開催したり、認知症の人やその家族、支援者がタスキを繋ぐ「オレンジRUNえべつ」を企画し実施するなど、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的の実施し、各職員に伝達。「身体拘束はしない」というのが、全職員の共通した考えであり、それを実践している。玄関に施錠をしないでセンサーを設置し、自由に外出する事が出来るようにしている。入居者の動き、言動の把握により、無施錠の玄関ドアから不意に外出しないよう注意している。また、外部の人が無断で入ってきてもすぐに気づけるように注意している。	職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修を受けた職員は、職員会議で発表し情報を共有している。施設長は特に言葉による暴力について、事例説明を行いながら職員を指導している。全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を理解するために、定期的に学ぶ機会を検討している。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度の職員会議や勉強会、また、ニュースなどで虐待がとりあげられている時など、話し合いをし、未然に防いでいる。また、虐待についての研修会にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者が系列のホームにいますので、その例をとって話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族とは連絡を密にし、入居者とも話し合いをし納得して頂けるよう努力している。御家族と連絡を密にし、契約や解約に関する説明を十分に説明し、納得してもらえる様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪された場合や行事参加の時、3カ月毎の計画書送付の際など、入居者の現在の状況が分かり、意見や要望を言っていただけのように心がけている。	事業所での暮らしぶりを写真に収めた「ななかまど大麻」便りを2カ月毎に発行している。更に、利用者個々の近況も、3カ月毎に報告している。家族の来訪時には利用者の様子を伝え、気持ちを汲み取る様に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、ホーム長、管理者が毎日のようにホームに来て職員と会話して、意見や提案を聞くようにし、それを実行できるように心がけている。	運営者である施設長やホーム長は共に利用者の介護に携わっているため、職員とも日常的に何でも話し合える関係性が築かれている。職員の提案で、利用者が安全に入浴出来る様に、浴槽リフトの設置を実現している。資格取得にも勉強会を設けるなど支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修や内部の勉強会、資格取得などを行い、職員の向上心への働きかけ、職員のスキルに合わせてトレーニングし、維持していけるよう努めている。 労働しやすいように、屋外に喫煙所を設け職場環境を整え、介護手当という名称で頑張りに応じた手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修では、介護福祉士の勉強会などを行っている。外部の研修では防火管理研修や、職員の段階に応じて研修などに参加し、トレーニングを進めている。今年度は、災害、感染症についての研修等に参加している。また、研修に行った職員が勉強会を開き、得た成果を他の職員と共有しケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの交流の集いを開き、企画して参加し職員同士の交流をもっている。 毎年ホームで開く夏祭りに来て頂いたり、相手方のホームの祭りに参加し、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営者や職員が直接本人と話をし、どのようなことで困っているのかを把握し、受け止めるよう努めている。入居者と世間話をしたり、昔話を良く聴いたりしてコミュニケーションをとり、信頼関係を保っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営者や職員が直接御家族と話をし、どんなことが気になっているのか、どのようなことで困っているのか、今後どうしていきたいのかを把握し、受け止めるよう努めている。御家族とコミュニケーションをとり、信頼関係を築き、悩みを相談しやすい雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に積極的に話しかけ、入居者の生活の様子を伝え、御家族からの相談や要望も聞くように配慮している。職員と御家族が相談し、本人にとってすぐにも必要なケアは何なのか見極められる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者との会話を多く持ち、話を聞くことに重点を置き、入居者一人ひとりに合わせた雰囲気です。日常生活においても、調理時や食器洗いの時などの、汚れの落とし方、昔ながらの方法をおしえていただくなど、自然に支えあう関係が出来ている。調理・片付け・掃除・買い物等、入居者と職員で作業している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	陶芸・イチゴ狩り・夏祭りのお手伝い等、多数の行事に参加していただき、お互いの喜びを楽しみ共有している。面会は常に歓迎している。遠方でそれが叶わない場合は、電話や手紙での交流も積極的に行なっている。各種案内や連絡を取り続け、支援の輪を増やしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームはマイクロバスで、入居者の外出の希望を叶えている。また、馴染みの方がいつでも気軽に訪れるよう配慮している。	ご近所の方が来訪された時は、お茶でもてなしている。家族が利用者と共に馴染みの店に買い物に出かけたり、外食を楽しんでいる。事業所は、利用者の要望に沿える様に、出かけていく場面を積極的に作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握するよう努めている。デイルームに入居者同士が自由に過ごせるような居場所を確保し、レクリエーションを行えるようにしている。常に職員は、入居者の間に入り関わりを支えるよう努めている。散歩や外出等において、さりげなく入居者同士で手を繋いだり、声を掛け合える雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム側はいつでも相談を受け入れる体制にある。また、行事の案内を送付する等、継続的な関わりを持っている。 いつでも気軽に尋ねられるよう配慮もしている。現在入居している方の御家族だけでなく、退所した方々の御家族との関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人間としての生活が保てるよう入居者一人ひとりの尊厳を尊重し、自分のペースで生活していただいている。職員は一人ひとりの希望や自己決定など本人の意向にそよう、今までの生活歴を把握し、本人の思いに近づけるような援助に努めている。	センター方式のアセスメントを基に、職員は日常の会話や声掛けの反応を見て思いを汲み取り、意向に沿った支援に取り組んでいる。情報はケース記録に記載し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には使いなれた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過ごせる場になっている。又、生活歴から本人の得意な事を把握し、活躍の場を広げている。センター方式を用いて、本人を理解するツールとして活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して入居者一人ひとりをよく観察し、バイタル測定や体重測定で健康状態の把握をし、申し送りやケース記録を用いて状況を把握している。一人一人一日の過ごし方や心身状態が違っているので、情報を共有して、それを忘れないように記録として残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者主体の介護計画をセンター方式により、全職員の出席する職員会議にて意見、アイデアを取り入れ作成している。原案は御家族に送付し確認していただいている。また、入居者の居室にも掲示しており必要な場合は話し合いの場をもつ。職員会議にて意見を取り入れながら3か月ごとの見直し・作成を行い、見直し以前に変化があった場合は新たな計画を作成し、御家族にも確認していただいている。	毎月、全利用者のモニタリングを行っている。介護計画は職員会議にて全職員で話し合い検討されて、3か月毎に見直している。計画作成者は暫定プランを立て、家族に説明し、了承を得た内容で最終確認としている。利用者の居室にもケアプランを掲示して説明し、要望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとり個別記録をしている。ニーズに対してのサービス内容を細かくし数字(サービス内容)に置き換えることで、より細かな援助内容を個別に記録する工夫ができています。その他、気づきや工夫がある場合は個別記録に記入し、その他に朝夕2回の申し送りで情報交換を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な対応を行なっている。グループホームとしての特性を活かし、本人や御家族の要望に応えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの消防署に届けを提出し、月に1度防災訓練を行っている。また、救急救命講座会や防火管理者講習にも参加している。不審者対策に玄関前にカメラを取り付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を実施しているかかりつけ病院(野幌病院)を確保しており、院内に気軽に相談できる相談員がいる。また、訪問看護と提携しており、日常的に入居者の健康管理を支援している。分からない事があればすぐにかかりつけ医に連絡している。	訪問診療は月2回、訪問看護は月1回実施し、利用者の健康管理に努めている。緊急時は、医師と24時間対応で連携を図っている。他科の受診は職員が支援し、情報は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を受けており、訪問看護師と連絡を密にして入居者の健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連絡を密にし、御家族とも連絡を取りながら早期退院できるように話し合っている。職員は自主的にお見舞いに行き、身体状況の把握をし退院後の支援についての情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の異変・重度化した場合は医師・御家族と共に話し合いをしている。また、その情報・方針をケース記録への記載や、申し送りを通して職員全員が共有している。また、運営推進会議等でターミナルケアについて御家族と話し合う機会を設けている。御家族に入居者の最後についての話を聞いており、相談を受けられる様にしている。かかりつけ医の指導を受けながら出来ることを支援している。昨年末、一人の入居者を看取り、そのことを御家族と共有している。	事業所は、重度化に関する対応指針を作成し、利用者、家族に説明を行い同意書を得ている。訪問診療医が終末期まで診療を担当している。看取りの経験も多く、医療連携の下、家族とは何度も話し合い、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。事業所で葬儀を行った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の掛かり付け医を確保している。職員全員がAEDの使用方法を把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難防災訓練と消防署員の立会いの下、春・秋(日中・夜間)の防災訓練・消火訓練を行っている。また、地域の行事にも積極的に参加し、日頃から協力をお願いしている。災害があった時を考え、非常食を常に完備し、月1回の断水停電訓練を行っている。	消防署指導の下の訓練を年3回実施し、夜間帯の訓練も取り入れている。自主訓練も毎月実施され、停電時や断水時対応も行っている。屋外サイレン機器を設置し、地域住民の協力も仰いでいる。発電機やAEDも配備し、災害時用の食料も備蓄し防寒用品も準備している。利用者の避難時用に防寒頭巾とマスクも用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は本人のプライバシーを損ねないよう気を付けている。介助しているのではなく、介助させて頂いているという意識を持ち、接している。また、個別化や受容という基本的で大切なことを忘れず援助している。個人情報に関しては職員全員が誓約書を書き、厳重に取り扱うよう徹底している。	職員は、日頃からどのような対応や言葉かけが最善か話し合い、意識し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。名前の呼び方に関しては、利用者の希望に応じて、家族の了解を得た中で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者の自己決定を重視し、本人に分かりやすい説明・コミュニケーションをとりながら、時間がかかっても可能な限り自分で選択して頂いている。外出時、食べたい物を一人一人に聴いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の生活歴や得意なことを把握し、自分のペースで希望に沿った生活が出来るよう支援している。介護者の価値観を押し付ける事無く、入居者の長年築き上げた生活歴を理解しようと努力し、できるだけ、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や機能性に配慮しつつ、本人の意思・個性を尊重したおしゃれが出来るように支援している。理美容は2ヶ月に1回訪問理美容を利用し、入居者にもご満足して頂いている。入居者、御家族のご希望を聞き、パーマをかける、髪を染める、おしゃれ染めをするなどその方にあつた対応をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの残存機能を活かして、調理や盛り付け、配・下膳など、出来ることを職員と一緒にやっている。また、好き嫌いのある入居者や食事制限のある入居者には栄養バランスにも配慮しながら個別のメニューを提供している。	献立は、栄養バランスや利用者の嗜好を考慮して、ホーム長が作成している。職員は利用者の能力を引き出し、調理や盛り付け、後片づけ等を一緒にやり、和やかに食事を共にしている。行事食には職員手作りの生寿司も出たり、レストランでの外食など食欲を高める工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に、1日の食事量、水分摂取量を一目で解る様記載している。本人の好みに合った食事を栄養バランスを考え提供している。刻み食やゼリー食等、個別に食べやすい工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、歯磨きや舌磨き、歯間ブラシを行っているが、その際全てを介助者が行なうのではなく、本人の出来ない部分を介助している。口腔内の観察を行い、異常があった場合は歯科受診している。入れ歯は夕食後にお預かりして、入れ歯洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄パターンは概ね把握しており、時間毎など必要に応じて声掛け・誘導を行っている。その際、自尊心を傷つけないよう一人ひとりに合わせた配慮をしている。職員同士排泄の確認をし合い、体調の悪い時など申し送りにて小まめにトイレ誘導を行い、排泄介助をしている。	職員は、排泄パターンをケース記録に記載し、情報を共有している。自立している利用者もおりますが、誘導や声掛けが必要な利用者には、タイミングを図りさりげなく支援している。昼夜ともに全員がトイレで排泄出来る様に取り組んでいる。日中は布下着にパットを使用する利用者が多く、普段から自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌とケース記録に排便状況、1日の水分摂取量を一目で解る様に記載している。排便しやすく水分を取りやすくする為、ゼリー食等、本人が無理なく摂取できるよう工夫している。体操や外出を日常的に取り入れ、身体を動かす機会を多くしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特定せず、入居者の身体状況に合わせた入浴をしていただき、快適な生活が送れるよう努めている。一人一人によってゆっくりと湯船に浸かって頂く。(話をしながら)	入浴はいつでも入れる体制で、週3回を目安に支援している。入浴時間は職員とゆったりとおしゃべりを楽しみリラックス出来る様に支援している。より安全に入浴出来る様に、入浴リフトなど福祉用具を導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩や手伝い、体操などをして運動不足を解消し、夜間安眠できるように支援している。不安や混乱がある時には安心や落ち着きが得られるように対応し、疲労時には居室にて気分転換や休憩が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からもらってくる薬剤情報提供書をファイルにまとめ、又、各個人のケース記録にもまとめ解りやすくしている。薬剤の追加や変更があった場合も同様にケース記録、申し送りに記載して情報を共有している。薬は毎食毎のケースに準備し、薬は入居者にその都度手渡し、その場で飲んでもらい、誤飲や飲み忘れをしないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の情報を基に、得意なこと、趣味などを探り、会議などで話し合っって職員同士が情報を共有して、一人ひとりが家事の分担や庭の野菜作り及び収穫など、お手伝いや得意なこと、楽しめることを行い、充実した日常生活が送れるように支援している。外出が好きな方には、一緒に買い物に出掛け、気分転換しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など積極的に行なっている。外食や行事を大いに取り入れ、入居者の楽しみの一つとなっている。天気のいい日には散歩に出掛けたり、夜間のイルミネーション見物や早朝の雪まつり見学、海水浴などに出掛け、楽しみながら生活出来るように努めています。	事業所は閉じこもらない暮らしを支援しており、散歩や買い物、畑作業等を日常的に取り入れ、遠出の時はマイクロバスで、外食を始め、雪まつりや莓狩り、梅園、海水浴と、時には家族の参加を得ながら楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者に関しては見守りにて買い物をして頂き、不可能な入居者に関してはホームとして預かり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話は、その時の本人の状態を見極め本人と代わりお話ししていただいている。こちらから掛ける場合も同様である。また、年賀状を書いて送っている。母の日などに贈り物が届いた際には、本人と一緒にお礼の電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃(職員・入居者)を行い、汚染時には職員が素早く対応し、不快無く過ごせるように努めている。テレビは適切な音量にしている。日差し強い日はレースのカーテンを使用。エアコンや窓の開閉、換気扇などで空調を管理している。季節ごとに花などの飾りを変えている。季節によって飾り付けを行って行っています。	アパートを改装した事業所ですが、家庭的でアットホームな雰囲気がある。日中過ごすことが多い居間兼食堂は、利用者一人ひとりが自分の居場所をもっており、職員と利用者はいつも談笑し寛いでいる。蓄熱式暖房の温度も適温で、窓からの陽射しも明るく、騒音や悪臭も無く心地よい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・2階ホールには畳の長いす、ベンチを置き、入居者が自由に使用出来るようにしている。それぞれの性格や対人関係を考慮し、現在の座席配置が悪ければ席を変えるなどの柔軟な対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や本人の使いやすい家具を使用し、入居者が自室で穏やかに過ごせるようにしている。	利用者の意向や家族の協力の下に、整理筆筒やテレビ、仏壇、日用品など馴染みの品が持ち込まれ、動線に適した配置で置かれている。壁には職員から毎年誕生日に贈られる、本人の写真入りの色紙が飾られており、思い思いに寛げる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下や玄関など要所に手すりを設置している。また、常夜灯・フットライト・センサーライトを要所に設置している。色のついたテープを用いて、階段や手すりをわかりやすいように工夫している。		